

大分工業高等専門学校	開講年度	令和02年度(2020年度)	授業科目	環境微生物学				
科目基礎情報								
科目番号	R02C520	科目区分	専門 / 必修					
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 2					
開設学科	都市・環境工学科	対象学年	5					
開設期	前期	週時間数	2					
教科書/教材	久保幹、森崎久雄、久保田謙三、今中忠行 著、「環境微生物学」化学同人							
担当教員	帆秋 利洋							
到達目標								
(1) 微生物の定義（分類、構造、機能等）を理解している。（定期試験）								
(2) 物質循環と微生物の関係を説明できる。（定期試験）								
(3) 微生物のエネルギー獲得機能を理解している。（定期試験）								
(4) 環境微生物生態の事例を理解している。（定期試験）								
ループリック								
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安					
評価項目1	微生物の定義（分類、構造、機能、等）を説明できる。	微生物の定義（分類、構造、機能、等）をおおよそ説明できる。	微生物の定義（分類、構造、機能、等）を説明できない。					
評価項目2	物質循環と微生物の関係を説明できる。	物質循環と微生物の関係をおおよそ説明できる。	物質循環と微生物の関係を説明できない。					
評価項目3	微生物のエネルギー獲得機能を説明できる	微生物のエネルギー獲得機能をおおよそ説明できる	微生物のエネルギー獲得機能を説明できない					
評価項目4	環境微生物生態の事例を説明できる	環境微生物生態の事例をおおよそ説明できる	環境微生物生態の事例を説明できない					
学科の到達目標項目との関係								
学習・教育目標 (B2) JABEE 1(2)(g) JABEE 2.1(1)③								
教育方法等								
概要	<p>（実践的教育科目）本科目は、建設会社にて環境部門の研究開発に携わった教員が、その経験を活かし、微生物の環境との関わりについて講義形式で授業を行うものである。            教育プログラム：第2学年○科目、授業時間：23.25時間、関連科目：都市・環境工学概論、基礎生物化学、衛生工学なお、本科目は、アグリエンジニアリング教育、レジリエントマネジメント教育の対応科目である。            (科目情報)            授業時間 23.25時間            実践的教育科目/AE科目/RM科目</p>							
授業の進め方・方法	<p>本講義では、教科書を中心に、微生物機能を利用した環境修復技術や環境浄化技術などのバイオプロセスを理解するために、環境微生物の生理特性などの基礎知識、および自然界での挙動を理解するための微生物代謝反応や反応速度についてその概要をパワーポイントにて解説する。また、実際の環境における環境微生物生態の事例についてパワーポイントを紹介する。            この科目は学修単位のため、授業とは別個に事前・事後学習として、グループでの調査・討議や個人別のレポート作成、プレゼンテーション&amp;ディスカッションを10回以上実施します。総合評価が60点以上を合格とする。            (単位修得の条件について)            全課題の60%以上の提出を単位修得の条件とする。            (総合評価)  <math display="block">\text{総合評価} = (2\text{回の定期試験の平均点}) \times 0.7 + (\text{課題の平均点}) \times 0.3</math>            (再試験について) 再試験は総合評価が60点に満たない者に対して実施するが、全課題の提出を受験資格の条件とする。</p>							
注意点	<p>教科書にない事例紹介では、講義中にノートを取り復習を推奨する。            (履修上の注意)            必要記入事項について理解すること。            (自学上の注意) 必要記入事項が適切に書かれているか自己で確認すること。</p>							
評価								
授業計画								
	週	授業内容	週ごとの到達目標					
前期	1stQ	1週	はじめに、ガイダンス					
		2週	環境微生物の基礎					
		3週	環境微生物の進化と環境形成					
		4週	環境微生物の物質変換					
		5週	極限環境微生物					
		6週	地球環境の激変との関わり					
		7週	汚染物質除去・分解					
		8週	環境浄化・改善・修復					
2ndQ	2ndQ	9週	前期中間試験					
		10週	前期中間試験の解答と解説					
		11週	環境モニタリング					

		12週	食糧生産への微生物利用	コンポストについて学び、資源循環の重要性について説明できるようになる
		13週	バイオエネルギーと微生物	メタン発酵について学び、嫌気性発酵の代謝プロセスやそれらを担う微生物について説明できるようになる
		14週	微細藻類	水系での一次生産者である微細藻類について学び、水域での生態学的機能について説明できるようになる
		15週	前期期末試験	
		16週	前期期末試験の解答と解説	分からなかった部分を理解する

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建設系分野	生物多様性の現状と危機について、説明できる。	4	
			生態系の保全手法を説明できる。	4	
			生態系や生物多様性を守るための施策を説明できる。	4	
			物質循環と微生物の関係を説明できる。	4	

#### 評価割合

	試験	レポート課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	30	10	0	0	0	0	40
専門的能力	30	10	0	0	0	0	40
分野横断的能力	10	10	0	0	0	0	20